

第1回山梨県食の安全・安心審議会議事録

令和4年9月1日掲載

○日時 令和4年8月3日（水）午後1時30分～4時00分

○場所 山梨県防災新館1階オープンスクエア

○出席者 （敬称略）

（委員）：足達委員、小野委員、菊島委員、長谷川委員、平井委員、藤井委員、丸山委員、宮下委員、向山委員、森田委員、安留委員、渡辺委員
（以上12名）（50音順）

（事務局）：県民生活部 小林部長
県民生活安全課 北村課長、依田総括課長補佐、加藤副主幹
石川副主査、渡辺主任、三浦職員
衛生薬務課 杉本課長補佐
保健体育課 戸田課長補佐

○傍聴者等の数 2名

○会議次第

- 1 開会
- 2 任命書の交付
- 3 県民生活部長あいさつ
- 4 会長及び副会長の選任
- 5 議事
 - （1）「山梨県食の安全・安心推進計画」の実施状況について
 - ・「第2次山梨県食の安全・安心推進計画」数値目標の達成状況について
 - ・「第3次山梨県食の安全・安心推進計画」令和4年度の主な取り組みについて
 - （2）「第4次やまなし食育推進計画」の実施状況について
 - ・令和3年度の数値目標の進捗状況について
 - ・令和4年度の主な取り組みについて
 - （3）「第4次やまなし食育推進計画」の数値目標の変更について
 - （4）その他
- 6 その他
- 7 閉会

○概要

- 1 開会
- 2 任命書の交付
- 3 県民生活部長あいさつ
- 4 会長及び副会長の選任
- 5 議事

（1）「山梨県食の安全・安心推進計画」の実施状況について

○事務局から、「第2次山梨県食の安全・安心推進計画」数値目標の達成状況と令和4年度の主な取り組みについて説明。（資料1-1、1-2）

○質疑は以下の通り

委員

大変素晴らしい発表ありがとうございました。オーガニック農業につきまして、数値目標の 200 ヘクタールを超えたので目標達成したみたいですが、みどりの食糧システム戦略っていうのがあるじゃないですか。それで、北杜市が補助金を獲得しましたよね。JAS 農家の支援を始めるということで、要するにヘクタールの耕作地が増えるのが予想されるわけですよね。この目標設定数値が低いんじゃないかっていう気がします、その辺はいかがでしょうか。

事務局

有機農業の取り組み面積の目標数値ですが、第 3 次山梨県食の安全・安心推進計画の中では 220 ヘクタールになっています。こちらの数字は農政部にやまなし農業基本計画というものがあまして、そちらの数値を反映させていただいております。有機農業の取組面積 220 ヘクタールの下に(R4)と書いているのですが、農業基本計画が今年度改定されるというところがありまして、改訂を受けて第 3 次計画の数値を変えていきます。今後、どのように数値を設定するかは、まだ決まっていないです。

委員

国の補助金が先月決まったばかりなので、まだ反映はしてないと思いますが、今後できたら反映していただければありがたい。

また、令和 3 年度の実績において、販路拡大に向けた情報共有と書いていますが、実は昨日 JAS 農家さんと話した時に、JAS 農家さんがどんどん増えますが、一番困っているのは販売先と物流です。ここが解決しない限り、農業をしてもたぶん続かない。持続可能な農業にならない。県でどうこう出来るものではないと思いますが、補助金等がもしあるのであればお願いしたいと思います。

事務局

具体的な取り組みにつきましては、農政部農業技術課が担当部署になります。ご意見はそちらに繋げていきたいと思ひます。

委員

お願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

議長

ご説明の中にもありましたが、食の安全・安心ポータルサイトの周知方法についてご意見等ございましたら、ぜひご提案いただけますでしょうか。

委員

弊社の方では、毎月発行している無料の情報誌があるのですが、その中に食の安全・安心ポータルサイトに繋がる QR コードを掲載させていただこうと思っております。毎月 15,000 部ぐらい発行しておりますので、かなり多くの方に見ていただく機会にはなるかなと思ひます。チラシ等掲載できる機会もあるかと思ひますので、そういったところに QR コード等でポータルサイトに繋がる場を作っていければ、もっと見る方が増えると思ひます。

議長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

委員

直接的に関係する部分では無いかもしれませんが、情報提供ということで紹介させていただきます。冒頭、小林部長の方からも世界情勢が大変で食に対する意識が変わってきているという話がありましたが、JA グループでも食料安全保障の観点からいろいろ提言をしております。国においても、法整備を進めていこうという動きが出てきています。そういった部分も捉えながら、我々JA グループでは「国消国産」と言う言葉を使っています。これは地産地消と全く同じですが、もう少し大きな部分の中で国民が食べる食料の部分については、国で作っていこう。食料自給率 37%という中で、農法はいろいろあれどもですね、国の農地をフル活用させてから食料を確保していこう、ということで国消国産という言葉を使っております。

学校給食の金額ベースで 72%にするという話がありましたが、山梨県の農業形態を見ると園芸県だからその目標自体非常に難しいと思います。学校給食の予算的な問題のところも含めると、なかなか学校給食に占める国産あるいは県産という部分については捉え方が難しい。大変重要なことというのは認識をしておりますが難しい。国消国産を広めるため、10 月を国消国産月間として定めて、消費者団体と一緒にやったキャンペーンを行おうと思っています。今取り組んでいる食の安全の問題もありますし、日本の食料自給率 37%という中で、外国からの輸入するものに対する安全性もしっかりと捉えていかなければならない。これを共存させないと、日本の食体系は出来上がらないものですから、そういったところまで考えた取り組みをしていこうと計画をしております。また具体的な情報は県にもお伝えして、協力してもらえればありがたいと思います。

議長

ありがとうございました。ポータルサイトへのアクセス方法について、自分のところでもできそうだということがありましたらいかがでしょうか。あるいはリスクコミュニケーションの周知については、やってらっしゃるような事がありますでしょうか。

事務局

皆さまのところ、農場見学ですとか消費者に向けて理解を深めるような取り組みはどんなことをされているのか、情報を教えていただけたらと思います。

議長

甲府市でリスクコミュニケーターの養成をしていますが、その情報についてはご存知でしょうか。

事務局

すみません。勉強不足で存じ上げないです。

議長

甲府市でそのような取り組みをしていらっしゃるって、消費者庁と一緒に大学も入ってやっておりますので、その辺りも含めて、情報を共有されてもいいのではないかなと思います。

事務局

はい。ありがとうございます。

(2) 「第 4 次やまなし食育推進計画」の実施状況について

○事務局から、令和 3 年度の数値目標の進捗状況と令和 4 年度の主な取り組みについて説明。
(資料 2-1、2-2)

○質疑は特になし

(3)「第4次やまなし食育推進計画」の数値目標の変更について事務局から説明。(資料3-1、3-2)

○質疑は以下のとおり。

議長

先ほどのご意見もあったと思うのですが、そのあたり追加補足等ございますか。

委員

全て県産というと非常に難しいところがあると思います。ただ、意識付けという意味も含めて目標と言うところであれば、非常に意義のある数字だと思います。お聞きしたいのは、現在の学校給食の県産食材割合はどんな構成になっていますか。そういった調査をやっておられるんですか。

保健体育課

牛乳や米、肉、卵、果実、野菜、豆、小麦粉、水産、その他という形で調査を行なっております。よろしいでしょうか。

委員

それはわかるんですよ。その中で、現状県産のものがどのぐらい使用されているか、毎年調査で調べているのか。それがさっき言っていた56%という数字ですか。

保健体育課

全体の平均として、56%という形で出ていて、細かい部分については今はありません。

委員

分かりました。結構使われているには使われているんですか。

議長

調査の方法についてですが、実際には年間を通してのものではないという認識でよろしいですか。

保健体育課

この調査においては6月と11月に行っている調査になります。

議長

抽出ですか。

保健体育課

はい。7施設の抽出になります。

議長

7施設で5日間ですよ。

保健体育課

そうですね。第3週を中心にそこから通知を頂いて文科省に報告しております。

議長

年間通しての値ではないという認識でよろしいでしょうか。現在こちらで用いている数値は、文科省に報告している数値ということですか。

保健体育課

はい。そのとおりです。

議長

年間を通してだと、ちょっと考えられない値だったので。

委員

そういった情報もちよっと聞いたことがあるんですよ。山梨県は大変な偏りがあります。果物が中心の県ですから、米もだいたい減っていて、生産量3万トン、消費量が6万トンなので完全に輸入県ですよ。その中で学校給食については、優先的に県産米を提供しております。ただ、これが野菜や肉になると、その調査時点1点を捉えてあげることが可能ですが、全体的に年間を通じてとなると、非常にこの数値は低いかと思うています。果樹県だからといって、果物を全小学校、中学校の学校給食に提供しようとなると、金額で言ったらとんでもない数字になります。どことは言いませんが、自分のところで日本一の生産量を持つ果物を、JAで学校給食に1人に1つずつ提供をしました。そうしたら、“初めて食べた”という子どもが6割でした。学校給食の予算の問題もあって、これがままならない。それをどうだこうだ言うことは全く考えていませんし、問題にすることもありませんが、そういった実態の中で、本当に子どもたちに地域のものと言うならば、調査の目標数値だけを捉えて評価をするというのはいかがなものかなと思います。ただ、実際にこういった調査は重要ですし、これによって意識付けされることも重要な事ですから、偏りがある事は承知の上で、こういった数値を出さないと誤解を招くと思います。その点は意識していただきたいなと思っています。

議長

ありがとうございました。文科省が出している調査方法であるから、こういうことになるのかなと思います。実際に献立作成等に関わると、これだけの数値のものをそこだけに集中させて使った時に、後が大変だろうなということは非常に思います。そのあたりも現場のご意見ということで吸いあげての結果というふうには理解したいと思います。そのあたりいかがでしょうか。

保健体育課

令和3年度の結果の中で、56.2%という数字が出た時点で、課内でも相談しています。調査対象となっている施設の品目を、地場産物でどれだけ使えるか見直ししたところ、4%ぐらいは新たに取り入れることができるだろうという見当しです。また、先ほどの話の中でもありましたが献立作成ですとか、いろんな面でモデル校となっている学校等からを広げていって、約4年ありますので、4×4の16ということで、72%という目標を立てました。ただ、全国的に上昇していくこともありますし、不透明なところがあるので、今後全国の状況を見た中で、必要に応じてその目標値を見直すことも考えてはいけないのかなと教育委員会として考えております。

議長

他に何かありますか。

委員

山梨県パン協同組合の傘下に山梨県学校給食パン組合があります。子ども達に学校給食でパンを提供する事業所が減ってきています。現在7事業所で山梨県下の給食パンを提供しています。非常に苦慮しています。できるだけ地元の粉を配合して、山梨県産の「ゆめかおり」を5%配合していますが、作るのが週に1回しか仕事がないです。そうすると逆に今度はパン屋さんの存在がなくなってしまう。それぞれ企業や事業所を守りながら、山梨を盛り上げていくのはいいと思いますが、片方が良くて片方はどっちでもいいや、というのはちょっと違うかなと。私が小さい頃は土曜日も給食があったので、1週間に5、6日学校給食がありました。アメリカの影響があったと思いますが、全部パンでした。その時は学校給食の事業所さんは、忙しかったと思います。ただ、冬休みや夏休みがあるので、年間の稼働率というものが非常に少ないのも現状です。現在週に1回しかないという現状の中で地産地消というのでしたら、できるだけ山梨県産の小麦の配合率を5%から10%に増すことは可能です。私ども個人のお店では、山梨県産小麦100%でもパンを作っていますし、米粉を入れたパンも作っています。ですから、山梨県産の米粉を使ったパンも良いと思います。ただ、米粉を作るところがないんじゃないかと思います。

それと、1つ500円、300円の桃が、はね出しの桃だと1箱1,000円ちょっとくらいで買える。なぜ学校給食でそういうのを使わないのかなと思って。例えばもろこしにしても、長さ何センチが基準で、それより短いのは道の駅でも安く売っていますよね。物の考え方を、もう少し考えていかなきゃいけないという気がしています。特に学校給食のパンを作っている製造業者が疲弊しています。もし、山梨県で学校給食のパンを供給する所がなくなったら、山梨県はどういうことを考えるのかなと。そこまでは危惧しています。理事長という立場なので、こんなお話をさせていただきますが、パンの入っている食缶の外に髪の毛があっても、給食のパン製造業者が呼び出されるという話を聞いて、私は憤りを感じています。やはり、その辺の体質や体制とかをお互い様という事をもっと考えながらやっていかないと。市場に出すような農産物じゃなくたって良いじゃないですか。大塚人參の短い物はどうしているんですか？と聞いたら、“みんな捨てちゃうだよ”とか“土の中に埋める”と言う話を聞いたときに、えっ、と思いました。そういうことを、もう少し考えたらいかがでしょうか。

保健体育課

学校給食の現場として、1ヶ月前くらいから学校給食でどんなものを使うかということで献立を立てています。その時に見合うだけの、地場産物や1食の価格ですとか、そういったところがうまく折り合ったりすれば、値段や量があれば、学校給食としても当然使っていきたいとは思っています。そういったところを生産者側と消費者側である学校の方で、うまく必要なものが調達できるような体制が構築できるとよろしいかなと思います。本当に安い金額でやっています。

委員

安心安全ということをつえているのに、今度は価格の安さを求めると、極端に言うと国産じゃなくなりますよね。その辺の矛盾をどういうふうに解決していくかは、栄養士さんだけでは解決できないと思いますよ。それはかなりの負担になると思います。ですから、その辺を根本的に考えないと、いつまでたっても食の安心安全は神棚に飾っておくだけ。高くても買えないという話になったら、中国産のほうれん草を買うかという話になるじゃないですか。全部山梨県産だったら高くてもこの金額じゃできない、ということであれば、この数値は本当は違うのではないですか？本当に安全・安心の献立を作っているのですか？料金が給食費に合わなかったら、今度は合うようにするにはどうしたらいいかを考えるのがこの審議会じゃないですか。

保健体育課

はい。今のお言葉を受け止めて、当課でもしっかり話を進めていきたいと考えております。

委員

私は学校給食では無いですが、病院給食に長く携わっておりまして、実際に給食で毎週1回はパンを使っていたのですが、小麦の高騰によりパンの回数を減らしたことがあります。お金のことも1つですが、その食材が使えるか使えないかは、「量」なんですよ。昔はご存知のように、各学校で給食を作っていました。そうすると、その学校の人数分の食材があれば、その時だけ、どこかからもらう、一回だけ安くしてもらえとか、そういう応用ができたわけです。ところが、今給食センター方式とか、病院でも委託とかで、まとめてすごい量を買うことになる。そうすると、1,000個余ったからと言っても買えないんですよ。1万個半年間安定して供給してもらえないと契約はできない、という話になってしまって、そうすると大規模になればなるほど、小回りが利かない。食材費をまとめて購入するから安くなるんじゃないか、というイメージがあると思いますが、実は決してそうではないです。お魚が大量に捕れた、サンマが大量に捕れた。1週間は続くかもしれないけど、半年もつかって言ったらもたないですよ。私が直営でやっていた時は、安い時に合わせて魚屋さんから買えました。だけど高くて時期ではないようなものとか、安定したものでないと使えなくなっちゃったんですね。後で計算してみると、逆に食材費が高くなりました。牛乳等安定して供給するものは安くなりました。ただ、とれ高が変わってくるものについては、結局難しくなっていました。はねだしの桃等、小規模の小回りがきくような状況だと割と使いやすいと思います。特別に一回だけ入れるとかは出来るとは思いますが、大規模でやればやるほど小回りがきかない。

そういう特殊な食材を使うことが難しいという仕組みもありますので、金額だけではなくて仕組みの方も考えていかないといけないなと思います。以上です。

保健体育課

学校現場でもそういった現状がありますので、ありがたいと思います。

議長

私も若干その辺りを危惧していたところで、学校給食は非常に大量な食材が一括に入らないと回らないということがあります。なかなかその辺りをうまく結びつけていかないと難しいと思います。あともう一つ、先ほどの数値で年数×4%でしたっけ。それで本当に大丈夫でしょうか、と非常に心配なところですが、いかがでしょうか。

保健体育課

私達もこの数値を出す時に、どのような形で理由付けしていくか考えた中で、一番低いところの数値として4%というところになりました。実際にはそれ以上高く上がっているところもありましたので、そこを基準として当課の研修会等で周知をして意識付けをさせて、目標に向けて進めていくことを考えております。

議長

ちょっと高すぎるんじゃないかな、とは個人的には思います。他に何かご意見ございますか。

委員

県民栄養調査の1日塩分摂取量の目標量を、平成26年で10.5gを令和7年目標値で8.0g未満にするというのが、資料2-1でなっていたかと思います。そちらにつきまして、10.5から8gって

なかなか大変な数字かなと思いますし、食事摂取基準では男性と女性で分けてあるので分けるのか、そういう発想が無いのかなと。国民健康栄養調査は今年も去年に引き続いて中止ということですが、どうやって追いかけて8.0gを実現して行くのかなというところで、ご説明をいただければと思います。お願い致します。

事務局

数値に関しては健康増進課の担当になりますが、担当者から聞き取ったところによりますと、県内の4つの地域から世帯を抽出して、1週間食べたもの全てについて聞き取り調査を行うというような事でした。詳しい調査手法等については、こちらでご説明する事ができないので、また確認してお伝えするようにしたいと思います。

委員

どうぞよろしくお願いします。

議長

平成26年に県民栄養調査をやっております。

委員

そうですか。そこでは県民調査でやっておられるわけですね。

議長

はい。その時の男女の平均値になります。

委員

男女の平均値ですね。わかりました。

議長

ホームページ上にも出ていますが、1日の食事調査は国民健康栄養調査と同じようにしています。また、男女の率に関しても、第4次食育推進計画を決めるときにも話があったと思うのですが、県で最初から8gという数値がずっと続いているので、その数値を使用していると思います。

委員

ご説明ありがとうございました。

委員

数値目標の変更について、特定の時だけを抽出しているという事であれば、可能なのかなという気はします。なんかあんまりこう意味がないし、できると言えばできる、頑張ればできるという範囲になっちゃうのかなと思います。例えば、新聞で山梨県の学校給食県産割合72%とかって出たときに、すげえじゃんって県民は思うけれども全然違うと。もし、発表する時があるのであれば、この時期のここを抽出した数字という説明もして、経緯までまやかにならないようにしっかり発表していただきたいなと思います。

あと、この数値目標に関しては、令和3年度の実績で達成できてしまったものについては、その都度目標数値を上げる事も暫時やっていただいていた方がいいと思いました。以上です。

事務局

（学校給食の）数値目標の変更につきましては、いずれこの審議会にかけておりますので、公表と言うことになるが、手続き的には審議会の後に県の意思決定機関の庁議にかけて決定となり発表になります。先ほどお話がありましたように、公表の仕方に付きましては、確かにこの数字だけ見ると一人歩きはしていて、喜ばしいことだけれども、実はちょっと裏があるみたいなところもありますので、その辺につきましては保健体育課で色々答えていただきましたので、この数字自体は教育委員会で持っておりますので。公表の仕方については、また協議をさせて頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

議長

ありがとうございました。

委員

（学校給食の）目標数値の変更の件で、市場で水産をやっている者として、発表する時に参考になればと思いますが、水産物の山梨県産はなかなか無いですね。1週間の給食で魚が出てくる割合が1回か2回はあると思いますが先程の話でもありましたように、だいたい外国産です。ウクライナの問題とかで、外国産も値段が上がっていますが、魚に関しては海外産が主流になっていまして、給食で提供されている状況です。山梨県産というと、ニジマス、イワナ等の川魚、甲斐サーモン。富士の介が中心で押されていると思いますが、そういったものを使っていけないと水産物の地産地消の比率が全く上がらない状況。もし、目標変更するにあたって、予算がとれたら甲斐サーモン、富士の介も給食に取り入れていくことも考えて頂ければなと思います。以上です。

（4）その他

○質疑は以下のとおり。

委員

食の安全保障の部分については、この計画の中にどこに入るのかな？それともどこか違うところの担当になるのか。ちょっと付け加えると、パン屋さんで言うと小麦粉がね、値上がっているのは皆さん承知のことで、いろんな食材が大体10%は上がっているかなと思いますが、お金を出せば買える。海外からもお金を払えばものが届く。しかしこの半年の間、お金を払っても物が入ってこないという状況にいつなるのかなと心配をしているところです。食料自給率の話が出ましたけど、小麦が全く入ってこなくなって、じゃあ米余っているから米食べばいいじゃん、と言ったとしても米も足りない状況だそうです。本当にもし海外から食べるものが入って来なくなったら、日本人は飢え死にするんだろうなと思います。県の中では、この安全安心の（計画）に入るのか入らないのか聞きたいなと思いました。

事務局

分かる範囲でお答えさせていただきます。（食の安全保障の部分の話は）非常に逼迫した話というか、いつ起こるか分からない話でございます。決して空想ものではない話だと思いますけれども、これが現実に入った時はどこが対応するかという話ですが、私の知る限りは県で対策をねっているということはありません。しかし、少なくとも国の方ではそういったことを一義的にやるのかなと思います。省庁的に言えば農水省かなと認識はしてございます。その辺りのことは恐らくウクライナ情勢も今後どうなるか分かりませんが、国の動きを見つつ、県の動きも見えてくるのではないかなと思っております。よろしくお願いいたします。

委員

私が知っている範囲でお答えしますと、課長さんは答えられない部分だと思います。というのは、今まで食料安全保障について、所管官庁が協議をしたことがありません。よって法律もない、予算も無いという部分で、食料安全保障について考えていかなきゃならない時期になっているという提言です。通常国会から特別委員会を作りましょうというような動きがあるということを知っています。そういった情報がまたあれば、私どもも提供させていただきます。

事務局

ありがとうございました。JAさんとは、主に農政部そして県民生活部県民生活安全課で密接に連絡取ってございますので、また情報があれば教えていただきたいですし、こちら情報も色々キャッチしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

議長

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

委員

今年の重点目標の中に、有機の推進やアニマルウェルフェアの認証のことも含めていただいて、ありがとうございます。今回、この計画の中に有機をどのくらい使って学校給食をやっているとか、そういう手法は全く書いていないんですけども、将来的に学校給食に10%なり25%なりの山梨県独自でも良いので、学校給食で子ども達に有機を食べる機会を少しでも含めてもらえるような取り組みをやってもらいたいなと思います。

千葉県木更津市でオーガニックシティプロジェクトみたいな、市内の学校給食をすべて有機でやっていくようにする取組をされているところもあるみたいなので、参考になるかなと思います。

保健体育課

はい。今の話は私どもでも調べまして、市町村も関係するのでそちらにも情報提供していきたいなと思います。ありがとうございます。

6 その他

なし

7 閉会